

平成22年4月26日

中野元会長の逝去について

北海道電力株式会社
取締役会長 近藤 龍夫

中野元会長のご逝去の報に接し、心より哀悼の意を表します。

中野さんは、電源開発担当役員として、石油火力の伊達発電所や知内発電所、海外炭火力の苫東厚真発電所、日高系水力発電所の建設のほか、国内炭火力の砂川発電所の増設にも携わり、社長就任後には、北海道初の原子力発電所となる泊発電所を本格着工に導くなど、長期的な観点から電源の多様化を進め、北海道のエネルギー供給基盤の確保とエネルギーコスト低減のために尽力されました。

一方、社内では徹底した経営効率化を断行すると同時に、「社員全員がフロンティア精神を持って果敢にチャレンジしよう」と組織活性化・意識改革の陣頭指揮を執りました。

また、「北海道の発展なくして当社の発展はない」との認識のもと、地域振興に関する取り組みを強化し、企業誘致活動の積極的な展開、地場産業の育成および研究開発への協力を進めました。

さらに、社長退任後は、北海道経済連合会会長に就任し、新千歳空港の国際化を推進されました。また、北海道生産性本部会長、在札幌ドイツ連邦共和国名誉領事などの要職も歴任され、地域の産業や生活文化の向上に大きな役割を果たされました。

中野さんの性格は実直そのものでした。また、常日頃から「継続は力なり」と口にされ、仕事でも趣味においてもその言葉を実践しておられました。私にとりまして、会社の大先輩として、これからも電気事業、北海道経済について大所高所からご指導いただけるものと信じていただけに、誠に残念でなりません。

大正・昭和・平成という激動の時代を持ち前の強い信念で逞しく生き抜かれた中野さんを偲び、その輝かしいご功績を称えつつ、安らかなご永眠をお祈りいたします。

以上